

こう せい おそ 後 生 畏 る べ し

～100周年に向けてのお願い～



学校長 窪田善雄

本年度、小諸高校から転任してまいりました校長、窪田善雄と申します。微力ではありますが、多くの先輩たちが創り上げてきた弥生ヶ丘高校の素晴らしい伝統を継承し、本校発展のために力を尽くしたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて本校は、来年度100周年を迎えることとなりました。この節目に当たり、伝統の名に恥じない盛大な記念事業を挙げるべく関係者一同、準備に着手いたしました。同窓会の歴史始まって以来の『同窓会報第一号』がここに発刊の運びとなりましたのも、その一環と存じます。しかしながら、直接の関係者である私どもだけでこの大事業を遂行することは到底不可能であり、同窓生の皆さまの暖かいご支援をお願いする他ありません。

『論語』の「子罕篇」に次のような有名な一節があります。

「後生畏るべし。焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや。」（自分より後から生まれてくるものは、畏敬すべきである。これから出てくる人が、どうして今の自分たち程になれないと言うことができようか。）私どもは、「先生」などと呼ばれていますが、日頃「後生」（生徒のこと）の活躍の様子をみていると、この『論語』の一節をつくづく思い知らされることがあります。もしかしたら「後生畏るべし」という精神は、同窓会という組織にとっての普遍的なコンセプトかもしれません。

弥生ヶ丘高校の生徒たちは、日々、真剣に学習、クラブ、生徒会等の活動に取り組んでいます。特に近年、本校が力を入れているのが進学指導であり、着々と成果を挙げてきました。しかし、残念ながら近隣の高校が整備しているような生徒自習室が本校にはありません。このような状況に鑑み、記念事業の一つとして生徒がよりよい環境の中で自習ができる自学自習室の整備を計画しております。「後生畏るべし」の名に恥じない後輩たちの活躍を温かい目で見守っていただき、応援していただければ幸いです。何卒、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆さまのさらなるご健勝を祈念申し上げます。